



クニエ
ロジスティクスグループ
大室 翔史
マネージャー

中小企業の 人手不足への備え方

数年前から人手不足により、荷物が運べなくなることに對する懸念が強まり、最新技術の活用で作業を自動化して人やコストを削減しつつ品質向上を図る「スマートロジスティクス」に、企業が導入されている。今後のト

により、試験的な導入から実稼働まで取り組みの程度は異なるが「標準化」と「省人化」が主な目的だ。標準化は、特定の人の能力や技能に依存した作業をなくし、誰もができるように、パターン化すること。省人化は、人が介在する作業を短縮・変更・廃止しプロセスの効率を上げることだ。現状、業務を全て自動化できている企業はほとんど見られず、2030年時点でも約6割の人手作業は残るとされ、企業では人と機器が共に働くことができる職場の構築が必要だ。

効率・省人化に向けた機器の動向

機器で複数の作業に對應できるものが出てきている。例えば、豊田自動織機のトヨタL&Fカンパニーが開発した最新のAGV（無人搬送車）は取り付け部品

に対応。複数の物流企業や

シェアリング
による活用も

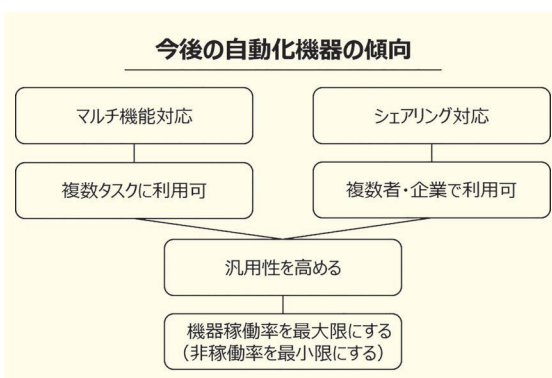
一つ目のトレンドは「マルチ機能の対応」。これまで荷物の積み降ろし、搬送、棚入れ、ピッキング、こん包、出庫、配送などの各作業を自動化する機器が数多く登場。最近の一つの機器で複数の作業に對應できるものが出てきている。

例えば、豊田自動織機のトヨタL&Fカンパニーが開発した最新のAGV（無人搬送車）は取り付け部品

に対応。複数の物流企業や

レンドを幾つか紹介する。

1台で複数の
作業に對應可



を変えれば搬送機、ピックアップ機、掃除機と機能を変更できる。自走型と追従型の切り替えも可能だ。また、同社のSLAM方式の自動運転フォークリフトも現場の状況や、作業目

を、別の作業を進めさせたり、他の企業に貸し出すことで非稼働時間を最小限にできる。効率良く自動化機器を活用するには、定期的な点検を行い故障を防止することとを前提に、「マルチ機能の対応を一層強化し、汎用性を高める」との推進が必要になる。

おおむろ・しょうじ 2010年米ナショナル大経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルティングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティングを手掛ける。